



ふくしま

の花

広大な県土を有し、浜通り・中通り・会津という個性豊かな

3つの地域から成り立つ福島県。

県内では、標高差のある多様な

気候を生かし、年間を通して

高品質な花き栽培が行われています。

県や産地によるオリジナル品種も

育成され、近年では、海外への輸出も

増えてきています。

全国上位の出荷量を誇る

本県の花きの主な品目や、

丹精込めて花を育てている

生産者の思いを紹介します。



知事

メッセージ

Message

ふくしまの花で
たくさんの人を
笑顔に

福島県知事 内堀雅雄

自然豊かな福島県は、県内各地に花の名所があるだけでなく、花の栽培も盛んで、近年では、海外への輸出も増えています。

県では、パイプハウスなどの栽培施設の整備や栽培技術の指導のほか、福島県の自然条件に適したオリジナル品種の開発にも力を入れています。

生産者の皆さんが丹精込めて作った花たちが、これからもたくさんの方々に笑顔をお届けできるよう、担い手の育成を始め生産者の皆さんの支援に取り組むとともに、県内外において、美しく高品質が自慢のふくしまの花をPRしてまいります。

ふくしまの花

県内では、切り花・枝物・鉢物など、多種多様な花きが生産されています。その中でも、全国上位の出荷量を誇る主要4品目をご紹介します。



トルコギキョウ

さまざまな品種があり花持ちも良いことから、業務用から家庭用まで幅広く利用される華やかな花。県内のほぼ全域で栽培されています。

- 出荷時期 5月～11月
- 主な産地 会津若松市、猪苗代町、会津坂下町、喜多方市、南相馬市、郡山市

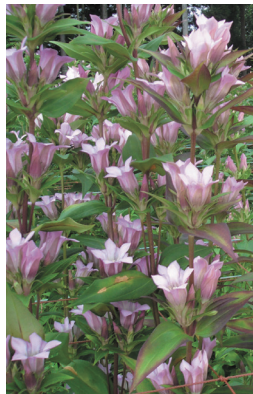
りんどう

鮮やかな花色と花持ちの良さで人気がある切り花。県や県内の育種家が育成し、本県の自然条件に適したオリジナル品種も栽培されています。

- 出荷時期 7月～10月
- 主な産地 南会津町、下郷町、只見町、喜多方市、二本松市、田村市、玉川村、須賀川市



ふくしましおん



ふくしまかれん

オリジナル品種を普及することで、シーズンを通した切れ目のない出荷や、特性を生かした戦略的な販売・PRを目指しています。

オリジナル品種を
育成しています

りんどう

県では、平成2年からりんどうの新品種の開発を始め、これまで6品種を育成しています。県オリジナル品種は、本県の自然条件に適して生育や形が良いことが特長で、県内の民間育成品種とともに「福島県花きオリジナル普及品種」として選定されています。

大切な人に届けたい。



菊^{りん} (輪ぎく、小ぎく、スプレイぎく)

日本の国花である「菊」は、県内で最も生産されている切り花。小ぎくは、福島市を中心に産地が広がっており、スプレイぎくは、施設化によりほぼ一年を通して出荷されています。

- 出荷時期 輪ぎく・小ぎく：6月～12月 スプレイぎく：4月～12月
- 主な産地 会津美里町、伊達市、いわき市、二本松市、福島市、新地町、川俣町

宿根かすみそう^{しゅっこん}

細い枝に小さな花が無数に咲いて、ふんわりと広がります。会津坂下地方は、夏秋期の国内有数の産地となっており、全国各地に出荷されています。

- 出荷時期 6月～11月
- 主な産地 昭和村、柳津町、南会津町、会津坂下町、金山町、三島町、会津若松市

海外の園芸博覧会で ふくしまの花をPRしました

今年7月20日～8月2日まで、「北京国際園芸博覧会」の日本館に福島県ブースを出展しました。夏の切り花を中心に県産花きを展示して、生産者の思いや本県への復興支援に対する感謝の気持ちを発信しました。



県が開発し、登録を目指している新品種

現在、品種登録を目指しています。

中山間地の立地条件を生かした切り花として、県内では夏秋期に良質なカラーが出荷され、全国有数の産地となっています。県では、平成18年から新品種の開発を始め、

カラー



地域の元気のために 笑顔で花を育てます

合子りんか(田村市都路町)
坪井千賀子さん 英子さん 益子さん



▲ 左から千賀子さん、益子さん、英子さん

みんな親戚で、ご近所に住んでいます。原発事故後に避難して、平成26年に戻ってきたとき、旧警戒区域の未利用農地を何とかしたくて。みんな花が好きだったので、りんどうの栽培を始めたんです。

花き栽培は初めてでしたが、できるだけ色々な品種をいっぱい作ろうって、16種類も育てています。病気になったり虫が付いたり大変なこともあります。でも3人で楽しくやっています。

りんどうはかわいい花で、白やブルーやピンクの品種もあるので、仏花はもちろん、アレンジなどにも使ってほしいですね。



品質の良いかすみそうを ご家庭で楽しんでください

J A会津よつばかすみ草草部会
部会長 立川幸一さん 洋子さん(昭和村)



夫婦二人三脚でかすみそう栽培を始めて22年。2品種を中心に1万6千株を育てています。標高差を生かして3カ所のほ場で時期をずらすので、6〜11月くらいまで長く出荷できるんです。日持ちが良く、きれいな白い花にするためには、気候に合わせた栽培が大切。暑い時期に標高の高いほ場で育てると、品質の良い花ができるんですよ。

3年前から直売所を始めて、規格外の花を売っています。かすみそうが大好きだからと、遠くから買いに来てくれるお客さんもいて、それが一番うれしいです。県内のスーパーにも出荷しているので、たくさんの方に楽しんでほしいですね。



直売所では、カラフルな染めかすみそうも人気

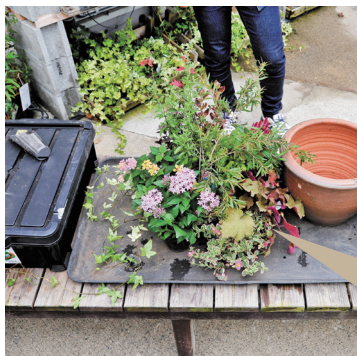
ふくしまの花を楽しもう！ 簡単寄せ植え講座

ひとつの鉢やプランターに複数の植物を集めて植える寄せ植えは、初心者でも簡単に作ることができます。県産の花苗を使って、気軽に季節の花を楽しんでみませんか？

ポタニカルショップ ファーマーズカフェ カーガ
協力: Botanicalshop & FarmersCafe Ca-Ga (猪苗代町)

- 準備するもの
- お好みの花苗
 - 鉢底石
 - 花苗が入る大きさの植木鉢
 - 鉢底ネット
 - 土
 - 小型のシャベル

1 花苗を選ぶ



花苗を選び完成イメージをつくる。この時、水やりの頻度が同じものや同じ環境で育つ植物同士を選ぶと、寄せ植えが長持ちする。

POINT
背の高い植物や葉が垂れ下がる植物を組み合わせ、高低差を出すとバランスをとりやすい。

2 鉢底ネットと鉢底石を敷いて土を入れる



水はけを良くするため、植木鉢の底に鉢底ネットと鉢底石を敷く。その上から土をかぶせ、高さをそろえる。

POINT
土は鉢植えの2/3程度まで入れ、花苗の根が隠れるくらいの高さに整える。

3 花苗をポットから取り出してほぐす



花苗をポットから取り出したら、新しい土になじみやすいよう、土や根の状態を確認しながらほぐしていく。

POINT
ポットから取り出した時、表面にも根がたくさん張っていた場合はよくほぐす。

4 花苗を配置する



背の高い植物から配置していく。葉が垂れ下がる植物は土から少し浮かせ、根本が植木鉢の縁に付くように配置すると◎。

POINT
短い期間で開花して枯れるのも早い植物は、植木鉢の端に植えると植え替えしやすい。

5 隙間に土を入れる



隙間に土を入れ、花苗を固定していく。外側から土を入れていき、中央にも入れたら植木鉢を揺らし、土を全体に行きわたらせる。

POINT
人差し指の第一関節分ほどの高さを残してスペースをつくり、水があふれないようにする。

6 形を整えて水やりをして完成



全体のバランスを見て形を整え、最後にたっぷり水やりをしたら完成！

POINT
花が枯れてしまったら別の花に植え替えて、オリジナルの寄せ植えを楽しもう！